

# 特色ある総合学科の構築（標茶高校全体計画）

北海道標茶高等学校

【令和元年度版】

本校の特色

地域・生徒の実態に応じた目標↓目指す生徒像↓系列設定  
↓3年間を見通した計画↓地域素材等を生かした科目設定・行事等

総合学科としての共通性

総合学科の理念↓学校の教育目標↓具体の方策

## 総合学科の理念

- ・ 職業選択のための進路意識醸成を重視
- ・ 個性を生かした主体的な学習による成就感体験を重視
- ・ 単位制や学校外の学習成果の単位認定等による教育課程の弾力化
- ・ 多様な入試、履修科目の自由な選択及び多面的な評価等による脱偏差値教育

## 学校の教育目標

- 1 探究 主体的で協働的な探究により、質の高い学力を身に付け、地域社会の発展に資する生徒を育てる。
- 2 飛躍 新たな時代において、不撓不屈の精神を以て、自己実現を目指すことのできる生徒を育てる。
- 3 共生 「人」、「自然」、「食」等に関する実学を通して、生命を尊び、多様性を認め合い、豊かな人間性を持った生徒を育てる。

## 本校の育成を目指す資質・能力

- 1 学びに向かう力 課題を解決する力
- 2 新たな時代を切り拓く力 自己の進路を設計する力
- 3 ふるさとを愛する力 自他を愛する力



## 資質・能力を身に付けさせる具体的な方策

- 1 積極的自学習慣の定着とAL等により主体的・対話的で深い学びの授業への導入を進め、基礎・基本が確実に定着するよう授業改善に取り組む。
- 2 教科・科目と産業社会と人間、総合的な探究の時間との横断的なかわり方を的確に理解させ、より現実的に自己実現を図る。
- 3 総合的な探究の時間や系列事業により、人との関わり、地域や学校の発信、環境の保全、農食の探究を通じ、全ての生徒が生涯にわたって郷土を思う心と「いのち」を巡る望ましい価値観を持てるよう、地域での様々な体験的な実学的活動

## キャリア教育の重点<基礎的・汎用的能力>

- 1 人間関係形成・社会形成能力
- 2 自己理解・自己管理能力
- 3 課題対応能力
- 4 キャリアプランニング能力

## 地域の特徴を生かした主な取組

### ◎国際理解教育

- ・ 英語プレゼンコンテスト
- ・ 英語スピーチコンテスト
- ・ 外国クルーズ船おもてなしボランティア
- ・ ユースキャン参加
- ・ 留学生受入観光案内
- ・ 海外高校生交換派遣

### ◎異校種連携

- ・ 小学2年生対象 ミニマト活用 食育授業
- ・ 小学生対象 訪問教科活動
- ・ 出身高校生の講話
- ・ 特別支援学校

### ◎中学生宿泊研修プログラムの実践

- ・ 釧路管内2校の来訪、本校ゼミ活動(グループによる体験研修指導)
- ◎地域素材を活用した商品開発
- ・ パフェプロジェクトで町おこし
  - ・ 鹿肉を用いた加工食品の開発

### ◎北海道環境素材を生かした学習活動

- ・ エゾシカ角、革の加工、骨格標本作り、肉の調理 研究
- ・ 河川、湿原、自然ガイド、タンチョウなど

### ◎地域での販売実習

- ・ 地域での各種販売会、JR釧網線をステージとした取り組み紹介など
- ◎地域ボランティア活動
- ・ 地域社会教育事業のリーダー、清掃活動、植樹活動、福祉行事運営活動、高齢者施設慰問、そ



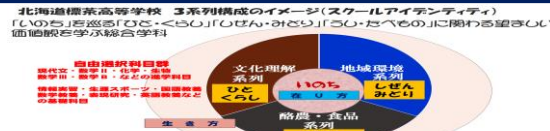
## 本校の外部・内部要因（＋、－）

- <外部要因> +豊かな自然(湿原の40%保有・豊富な森林資源、湖沼、温泉など)、酪農地帯、アイヌ文化、多彩な人材  
-観光未開発地、離農、人口減少、酪農と環境問題、エゾシカによる食害問題、希少生物の保護
- <内部要因> +日本一の敷地面積、農業施設・設備、教育課程の柔軟な編成・実施、若い教師集団による意欲的・積極的教育実践、豊富な体験活動の素材  
-農場の非効率な活用、施設の維持管理に難儀、他校経験者の不足、受検者数減少による教職員定員の縮減、多彩な選択科目や行事の展開が困難

系列  
特色・趣旨

## <「いのち」を巡る「人」「自然」「食」について学ぶ3系列>

- **文化理解系列**:日本及び諸外国の文化や、福祉、食などの生活文化等に係る学習を通して、文化や社会状況の多様性について理解を深め、違いを超えて人と人とを結びつける態度や能力(多文化リテラシー)を身に付ける。 <地域のグローバル化推進>
- **地域環境系列**:北海道の自然環境の現状、価値、保全の方法、食の「安心・安全」等について、地域の環境素材を生かした体験的な活動を通して理解を深め、実践力、表現力を身に付ける。  
<北海道の価値=自然環境を守る・生かす>
- **酪農・食品系列**:地域の基幹産業である酪農、北海道や標茶近隣の食材を活かした食品加工や食品開発及び6次産業化の推進に係る学習を通して、農業経営や産業構造及び農業の基礎的・基本的な知識や技術を身に付ける。\*食の6次産業化プロデューサー レベル1, 2認定 \*農業技術検定2級(畜産・食品・園芸)



## 3年間を見通した生徒像実現のためのロードマップ

### 1年次「産業社会と人間」

- ・ 自己を理解する
  - ・ 職業、上級学校を知る
  - ・ インタビュー、壁新聞等の表現活動
  - ・ プレゼンテーション研修
  - ・ 進路と科目選択を考える
- シラバスの活用**
- ・ 各科目、行事ごとに「基礎的・汎用的能力」を明示

### 2年次「自己探究」(地域探究)

- (総合的な学習の時間)
- ・ 自己、他者を理解する
  - ・ マナー、接遇の理解
  - ・ 5日間の全員インターンシップ
  - ・ 進路探求
  - ・ 進路と科目選択について考える
  - ・ 3年次課題研究の方法について学ぶ

### 3年次「課題研究」(課題探究)

- (総合的な学習の時間)
- ・ 課題を設定し、解決を図る実践
  - ・ 主体的、協働的学習の重視
  - ・ 各系列で提供した課題と目指す生徒像実現にかかる総合評価
  - ・ 地域への成果発表

## 本校のキャリア教育推進の具体的な方策

- 1 SEG、Q-U検査、ほつとの活用による生徒理解、生徒の自己理解推進、宿泊研修での人間関係づくり体験、ピア・サポートの導入、プロジェクト活動や課題研究における協働体験による人間関係形成力の向上、及び自他を大切にす道徳観の涵養
- 2 販売実習、5日間の全員インターンシップ、地域事業への参加等による他者と関わる体験による責任感、達成感、自己有用感、社会体験、失敗体験等による自己理解の深化、働き方に関する自身の心身のヘルスコントロール力の向上
- 3 3年間を見通したキャリア科目による課題設定、課題解決のための計画的なスキルアップ、各教科・科目での言語活動、アクティブラーニングの積極的導入(授業改善)による課題解決力の向上、さまざまな体験的な学習を通じて「知識」を「活用できる知恵(確かな学力)」として定着
- 4 3年間を見通したキャリア科目による在り方、生き方の考察とプランニングスキルの習得並びに地域等との関わりにより育まれる自己有用

◎=地元の特徴を生かした取組 ○=北海道の特徴を生かした取組